

令和5年2月20日
西部農林水産振興センター県央事務所大田農業部

標 題 次代を担う農業者の確保に向けて

(ダイジェスト)

大田農業部では、2月9日、大田地方農業士会と共催で、農林大学校及び高校の生徒等との研修会及び意見交換会を開催。現地視察研修と意見交換会を通じ、就農のきっかけ、農業のやりがいや苦労などで情報交換をした。一概に農業と言っても、就農や営農のスタイルにも様々なものがあると認識を深める機会になった。

大田地方農業士会（会長：生越大地氏、会員 19 名）は、地域農業を牽引するリーダー的役割を担う農業者で構成される組織。

会員は日頃から各農畜産物の生産振興に尽力されているが、農業の重要課題「新規就農者の確保・育成」についても、自分たちの課題であると、関係機関以上に熱い思いを持っていただいている。

こうしたなか、農業部では、大田地方農業士会と共催で、農林大学校及び高校の生徒等を中心に研修会及び意見交換会を開催。

視察研修会では、就農パターンや栽培品目の異なる3名の農業者を訪問。

A…施設野菜（アスパラガス）、非農家出身、関係機関に従事したあと就農

B…露地野菜等（ネギ、米等）、非農家出身、建設業等に従事したあと就農

C…果樹（ハウスぶどう）、農家子弟、学卒後に青果市場での研修を経て就農

研修会や意見交換会において、農業士の方からは、「農業は自分の頑張りが出果てるのでやりがいがある」「農業も人とのつながりが大事」などの意見。生徒からは「農業はきつい時もあるけど、それ以上に楽しいこともあるとわかった」「学んだことを学校生活に生かしたい」「職場体験などでも農業は受入先になかった」などの意見。



農業士の中には、すでに学校内での栽培技術指導や、食品加工実習用の農産物供給などに協力している者もあり、今回の研修会を通じ、さらに関わりを深める機会となった。

農業部としては、今後も、農業士会や関係機関などと連携・協力しながら、次代の農業を担う若者の確保に向けた活動を考えていきたい。